

ふれあい情報

2021年 4月 26日 (月) 第327号

■発行 日本退職者連合
 ■発行人 野田 那智子
 ■連絡先 〒101-0062
 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

<TEL> 03-5295-0507 <FAX> 03-5295-0541 <e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

2021年度全国事務局長会議を開催

「私たちの人間観、政治観、社会観がいま、問われている」

退職者連合は、4月14日、ルポール麹町で2021年度全国事務局長会議を開催しました。当初2月に開催予定でしたが、コロナ感染拡大のため延期し、ライブ配信と併用で実施しました。産別・関連退連、地方退連から52名の参加、ライブ配信は14日から2週間配信し、延べ287名(4月26日現在)の視聴がありました。



講師 井手英策さん
 (慶應義塾大学経済学部教授)

会議では、連合・政党代表からの挨拶に続いて、「ベーシックサービス」当たり前に生きられる社会をめざして」をテーマに井手英策慶應義塾大学経済学部教授からの講演を聞きました。(講演の内容は327号別号参照)

続いて、「2021年度政策・制度要求(素案)」、「新型コロナウイルス感染症対策に関する要求(素案)」、「低所得高齢単身女性に関する政策・制度要求(素案)」、さらに組織強化・拡大の取り組みについて事務局からの提案・報告に基づき、意見交換を行いました。

人見一夫会長あいさつ



「全国各地で日本退職者連合の政策・制度要求を始め、さまざまな活動に邁進されている全国のみなさんに心から敬意を表します。この会議は当初2月に開催予定でしたが、当時緊急事態宣言下で本日となりました。積極的な意見をお願いいたします。」

「コロナ禍で私たちの働き方や暮らしは大きく様変わりをしました。とりわけ雇用への影響は深刻で、政府への要請や経済団体への働きかけ、社会へのメッセージ発信に加え、『ゆにふあん』を通じて就労生活支援など積極的な取り組みを展開してきました。コロナ禍で大きく女性が苦境に立たされています。持続可能で包摂的な働くことを軸とする安心社会を実現するよう全力で取り組みます。」

逢見直人連合会長代行あいさつ



国民民主党
 玉木雄一郎代表



立憲民主党
 枝野幸雄代表



連合
 逢見直人会長代行

立憲民主党 枝野幸男代表あいさつ

「新型コロナウイルス感染症拡大、そして根拠なき楽観論に基づき後手にまわった対応を続けてきている今の政権には、統治能力はない状況で、強い危機感を持っていきます。政権を変えろという大きな大儀のもとに全力をあげて、北海道、長野、広島、3つの補欠・再選挙を勝ち抜いて解散総選挙に繋げていきたい。」

国民民主党 玉木雄一郎代表あいさつ

「松山英樹選手のマスターズ優勝、コロナ禍での明るいニュースでした。彼の手袋は香川県東かがわ市にある手袋メーカーで57年も携わる女性職人の手縫いによるものです。高齢化社会に尊厳ある生活保障が大事であり、私たちはリカレント生涯教育の推進、孤独・孤立対策、デジタル民生委員の設置などを求めています。」

意見交換

北海道・大西弘之事務局長
 「男女平等で、将来に向けて企画、運営、機関会議に女性の役員を30%にという目標がある。それにはクオータ制を取り入れては」。

京都・大場光夫事務局長
 「40地方退連が会費を徴収している」と回答しているが、個人から取っているのか、出身産別から取っているのか教えてほしい」。

は総論賛成、各論反対で進まない。組織拡大については「それぞれの組織で悩んでいるが議論し、アイデアを積み上げていきたい」。

とした、尊敬ある生活保障について講演を聞きました。「優しさを失った日本社会は、土台が崩れた自己責任社会で、実現可能な大胆な政策転換が必要。社会保障の財源をどこから持ってくるかという議論を避けず」。(講演要旨は327号別号に)



全国事務局長会議
(ルポール麹町にて)

農水退・柴山好憲事務局長
 「現役、退職者も組織強化拡大が最大の悩みである。今後退連としてどう組織強化・拡大を図っていくのか」。

「ベーシックサービス」
「当たり前前に生きられる社会をめざして」

4月14日に開催した全国事務局長会議の学習会に慶應義塾大学の井手英策教授を講師に招き、誰もが命を守り暮らしを営むために、必要なサービスが必要な時に受けられるベーシックサービスを基礎

退連からの答弁

「会費の徴収については、個別にあたらないと答えられない」「産別・地方退連の役員改選時にぜひ女性を選出してほしい」。「クオータ制

4月14日に開催した全国事務局長会議の学習会に慶應義塾大学の井手英策教授を講師に招き、誰もが命を守り暮らしを営むために、必要なサービスが必要な時に受けられるベーシックサービスを基礎

地方ブロック代表幹事意見交換会

を開催しました



4月13日、地方ブロック代表幹事の意見交換会を開催しました。北海道、東北、東海、近畿、九州ブロックの各幹事が参加しました。

人見一夫会長は「ブロック代表幹事から交流会を開催してほしいとの要望があり昨年の予定がコロナで今日になった」と挨拶しました。各幹事からは研修会、高齢者集会、レクリエーション等各ブロックでの活発な活動報告がありました。

意見交換では、①組織拡大の難しさ②連合現退での連携③財政問題などの課題が挙げられました。さらにブロックで何をやるのか問題提起の必要性を指摘し、これらの課題は運動方針等に反映していくことを確認しました。



男女平等を考えた

神奈川シニア連合事務局長

東谷裕明

男女平等参画の記事を依頼された。神奈川シニア連合は、2014年11月に男女平等参画推進委員会を設置し活動している。私は、女性の職域が拡大され電車・バス・トラックの運転手、海上保安官や建設現場の監督、各級議員や知事・市長など多くの女性の活躍と同時に、看護師・介護士・保育士などへの男性の就業により、男女平等社会が進み

つつあると感じている。一方で、学習会や講演会で「性別分担の払拭と意識改革」などを学んだが、日常生活で困ることもなく意識を変えられない私である。申し訳ない。今回、我が家の男女平等を考えた。「互いを尊重し、何事も押し付けることなく、弱いところを補い、感謝する」と結論付けた。70歳を超えた二人で日々頑張りたい。